

27 トリコモナス病〔届〕

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD     A["(1) 疫学調査"] --- B["(2) 臨床検査"]     B -- "(子宮腔粘液、包皮洗浄液)" --&gt; D["(4) 簡易寄生虫検査"]     B -- "(流死産胎子)" --&gt; C["(3) 剖検"]     C -- "(第四胃内容物)" --&gt; D     D -- "(+)" --&gt; E["(+)", 判定結果]     D -- "(-)" --&gt; F["(5) 寄生虫培養試験"]     F -- "(+)" --&gt; G["(+)", 判定結果]     F -- "(-)" --&gt; H["(-)", 判定結果]     </pre>
病性鑑定施設	<p>(+) → 判定結果 (+)</p> <p>(-) → (5) 寄生虫培養試験</p> <p>(+) → 判定結果 (+)</p> <p>(-) → 判定結果 (-)</p>
判定・結果	<p>(+)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、簡易寄生虫検査と場合により寄生虫培養試験の結果により本病とする。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 25 牛カンピロバクター症
- ② 4 ブルセラ病
- ③ 58 牛クラミジア症
- ④ 11 アカバネ病
- ⑤ 15 牛伝染性鼻気管炎
- ⑥ 26 トリパノソーマ病

○ 病原体: *Tritrichomonas foetus*

(1) 疫学調査

- ① 発生国からの牛の輸入
- ② 流死産牛、不受胎牛が増加
- ③ 早期流産(妊娠2~4ヵ月)
- ④ 特定の交配種雄牛および人工授精と関連

(2) 臨床検査

- ① 腔粘液の異常(膿様物および腔粘液の増量)
- ② 陰唇腫脹
- ③ 生殖器異常
- ④ 種雄牛はほとんど無症状か包皮内の軽い炎症、充血腫脹

(3) 剖検(流産胎子)

- ① 胎齢に比し矮小
- ② 退色

(4) 簡易寄生虫検査

- ① 検査材料
  - ・子宮腔粘液
  - ・包皮洗浄液普通ブイオン、ハート・インフュージョン・ブイオンの20~30ml(20℃、pH7.3±0.1)で洗浄し、滅菌試験管に採取、二重ガーゼで濾過、2,000rpm10分遠沈
- ・流死産胎子
- ・第四胃内容物
- ② 鏡検
  - ・標本の乾燥を防止し、30℃に保ち、可及的速やかに虫体の有無を確認
  - ・慢性、悪環境下では運動不活発、変形等で検出困難な場合があるので注意を要する。

(5) 寄生虫培養試験

- ① 子宮腔粘液、包皮洗浄液、流死産胎子の第四胃内容物を使用し、牛血清加ブドウ糖ブイオン培地または牛乳培地を用いて分離培養
- ② 37℃で7日間程度培養し鏡検により虫体の有無を確認する。